

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		社会福祉法人恵友会 こどもの広場ばいん				公表日	令和8年 3月 4日
環境・体制整備	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%	0%	規定以上のスペースはあったが、療育棟の増設により、天候に影響されことなく多様な活動に適切に対応できる環境を整えて集団療育を行っている。		
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100%	0%	国の定める配置基準は満たしている。マンツーマンでの支援が必要となるため、職員の配置数は毎日、1～3名多く配置して安全な支援に当たっている。			
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100%	0%	日課の内容や始まる時間を分かりやすく所定の場所に視覚的な掲示している。入口のスロープや手すりの設置、室内は段差のない作りとなっていて活動しやすくなっている。活動や休養などで個室の使用もできる。			
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%	0%	室内はエアコン・加湿器・室温計・空気清浄機等設置。使用前後に清掃や消毒をしている。屋外は充実した遊具があり、広さのある新療育棟などでは利用児が活動していく中で目的に応じた空間を提供している。	室内に留まらず、庭・事業所周辺の除草や遊具などで怪我をしないよう安全点検を行っている。		
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%	0%	個別言語療育や集中できる学習タイム専用の部屋を提供している。体調不良やクールダウンを行うことができる別棟もあり、落ち着いて過ごせるように工夫している。	療育棟・管理棟を併用して対応できるようにしている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	100%	0%	多くの職員が周知できるよう、申し送りやタテでの振り返りの中で業務内容の確認を行うようにしている。また、法人内の各種委員会を通して見直しや改善を図っている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	事業所アンケートの評価表での意向のみに関わらず、年1～2回実施している保護者会及び日頃の保護者からの意見や要望は可能な限り業務改善に繋げるようにしている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	定期的な職員面談の実施がある。その場での意見や全体ミーティングの中で出された意見等をそれぞれ検討して業務改善をしている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	56%	44%	第三者委員会による事業所評価は実施していないが、法人全体での虐待防止委員会が設けられている。その中で外部の方に依頼して定期的に事業所の報告を兼て会議が開かれ、改善策を講じている。	外部の方の評価を受ける機会を設けていき、安心して利用できる事業所として取り組んでいきたい。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%	0%	職員個々に合った外部研修や法人内での研修会へ参加できるようになっている。また、研修内容の報告や伝達などを事業所内で行っている。		
適切な支援の提...	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%	0%	事業所の実情に合った支援プログラムが作成されている。今年度の支援プログラムは令和8年3月に法人ホームページにて公開。	放デイとして求められている支援内容をその時期に合った支援プログラムとして作成できるようにする。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	100%	0%	必ずヒヤリングを行い、保護者や子どものニーズを把握している。また、関係機関との連携を図り各職種の意見を反映できるようにしている。新規利用時、年度切り替えの際はアセスメントをとり、計画の見直しを行い、支援に役立てている。	より詳細なアセスメントをとることで、ニーズや支援課題に沿った個別支援計画書を作成できるようにしていく。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%	0%	職員会議やケース検討会議などを実施する中での意見や情報を出し合いながら、職員の共通理解を図っている。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%	0%	計画書を確認することのできる環境となっており、支援内容に変更があった場合には、周知をするようにしている。	ICTを活用することで職員全員に共有しやすい方法を検討する必要がある。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%	0%	ICTの導入により、子どものケース記録等を職員全体で共有しやすくなっている。毎年4月にはインフォーマルなアセスメントで情報の更新を行っている。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%	0%	計画については5領域を踏襲し、ポイントを押さえたうえで、具体的な支援内容を設定している。また、進学、就労が近い利用児へは移行支援を手厚くした支援内容にしている。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%	0%	職員が意見を出し合いながらプログラムの立案に関わり、リーダーがまとめチームとして検討するようにしている。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%	0%	季節や利用メンバーに合わせて、それぞれの目的に沿って様々なプログラムを実践するようにしている。	利用児の自立向上・身体的機能向上・コミュニケーション能力向上・食育等の面から総合的に考慮して今後も取り組んでいきたい。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	100%	0%	状況によって利用児の年齢や発達段階で検討し、個別の活動と集団での活動を組み合わせながら活動を実施している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%	0%	毎日、受け入れ前の時間に申し送りを設け全員でその日の支援についての分担任や活動内容と利用児の体調、送迎等の確認を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100%	0%	支援終了後に振り返りを行い、伝達事項としたことは翌日の申し送りで全体周知ができるようにしている。	支援内容以外の保護者や学校からの連絡などは、申し送りノートとその日のプログラムに記載するとともに再度日々の申し送りで共有していく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%	0%	週活動計画・ケース記録・日誌に毎日記載し、振り返りや支援改善に繋げるようにしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%	0%	定期的(半年に一度)にモニタリングを行い、必要に応じて計画の見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	100%	0%	自立・日常生活の充実・多種多様な創作活動・地域交流・余暇活動など子ども一人ひとりの支援計画に沿って支援できるようにしている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	100%	0%	プログラム活動を促しつつ、個人の思いや要求を大切に受け止めている。幾つかの選択肢を提示し意思表示をすることができる工夫を回り、自己決定できるようにしている。	思うように意思を伝えられないで困っている時の解決方法を見いだせるようコミュニケーション力を高められるよう働きかけていく。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%	0%	参加できるよう調整している。参加する場合は事前調査をして臨んでいる。	担当者会議が開催できるよう、相談支援員との連携をとっていきたい。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%	0%	任意で医療機関との連携を行っている。学校関係では送迎時や電話で聞き取りをしてこまめな情報共有に努めている。	学校関係では意見交換や事業所説明会等の機会を設けていきたい。また、地域連携においては今後関係性を築けるようにしていきたい。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	100%	0%	学校へは月毎の利用状況、利用キャンセルや送迎の変更等を書面、FAX、電話等で連絡調整している。行事・年間計画・下校時間等は保護者からの情報提供をいただいている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	100%	0%	同法人内からの利用が多く、放課デイ利用時には随時担当者からの引き継ぎが行われているので、情報共有ができています。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	100%	0%	今年度は1名の移行支援対象者に対し、担当者会議や各事業所への移行に際して支障ないよう情報提供を行った。関係機関との連携、本人や保護者の要望なども踏まえて適切な共有に繋げた。	事業所移行後も定期的に連絡を取ったり、実際に訪問し様子を確認するようにしている。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	100%	0%	同法人の児童発達センターとの定期的な情報共有や合同の研修を実施している。すぐに連絡を取り、助言などを受けることができる。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	56%	44%	同法人内の事業所と外出レクリエーション参加で過ごす時間を設けている。買い物体験では地域の小学生との交流の機会をもっている。	児童クラブや児童館との交流は無いこともあり、今後の関わり方について検討課題となる。
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	100%	0%	自立支援協議会の会議や研修へは積極的に参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%	0%	お迎えの際や電話でのやり取りを通して事業所や学校での様子を共有できるようにしている。十分に伝えられない時はLINE等で補っている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100%	0%	ペアレントトレーニングの実施は無いが、同法人事業所で行っているペアレントトレーニングへの参加や相談対応についての助言を行うようにしている。	職員体制があり、事業所内で実施できていない。外部からの研修等はポスターやチラシなどで情報を提供している。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%	0%	契約時や変更が生じた際にはその都度説明している。また、文書・書面での配布もするようにしている。	内容理解ができていないこともあるため、丁寧に分かりやすく伝えられるようにしていきたい。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%	0%	個別支援計画作成に当たっては、事前に保護者との面談を行い、意向の確認を行っている。相談支援員とも情報共有を図り、作成に繋げている。	利用するお子さんにとって最善の利益になるようなサービス提供ができるようにしていく。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	100%	0%	保護者・利用児のニーズに沿った計画になっているか説明をしながら納得していただけた段階で同意を得るようにしている。	今後も利用児の発達段階を踏まえて保護者のニーズを反映した計画書作成を行っていく。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%	0%	面談以外でもその都度相談を受け付けるようにして必要な対応を取っている。相談内容により協力態勢を整え速やかな対応をしている。	相談は後回しにすることなく、丁寧にそして速やかに対応し、保護者に寄り添えるように心掛けていく。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	100%	0%	保護者会を開催している。今後も定期的を実施することで保護者同士や職員との交流の場を提供していきたい。きょうだい同士での交流については同法人内の事業所への促しをしている。	きょうだい交流の場については、同法人内での事業所で開催があり、対象者には勧めるようにした。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%	0%	事業所内に苦情解決制度があり担当職員を明確化し、対応が必要な場合は、迅速かつ適切に対応するようにしている。	苦情に繋がる内容は今までないが、日頃より話のしやすい環境を整えて信頼関係が構築できるようにしていく。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100%	0%	広報誌やばいんだより(毎月)を発行し、活動の様子や予定をお伝えするようにしている。LINEの活用もしている。	行事などは早めにお知らせすることでお子さんと保護者の方がともに楽しみできるようにしていく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%	0%	個人情報の守秘義務について、定期的に職員に伝え徹底を図っている。	個人情報の扱い扱いにおいては今後も十分に留意していきたい。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%	0%	LINEや連絡ノートなど視覚的ツールや電話などで情報共有をしている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	100%	0%	法人内のお祭りや行事に参加したり、外出レクリエーションなどで地域との交流や施設への理解向上に取り組んでいる。	利用児の安全を第一に考えて事業所の行事に招待できる機会を設けたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%	0%	それぞれのマニュアルは法人全体として策定している。保護者・職員への周知は随時行なっている。各種委員会主催で研修を兼ねた訓練も実施している。	訓練回数は多くないので定期的の実施できるようにしていく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%	0%	専門家に依頼し、より良いBCPを作成できるようにしている。また、定期的な防災・防犯訓練を実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100%	0%	個人のケース記録や個人ファイルを活用し、情報共有を行っている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%	0%	契約を交わす際アレルギーの有無は必ず聞き取りを行っている。現在、該当する利用児はいない。	食育の中でおやつ作りを行うため、利用児全員の確認している。食物アレルギーにならないよう引きつづき対応していく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%	0%	安全衛生委員会が中心となり、研修や訓練が行なわれている。	安全計画を作成し、定期的な施設設備等の点検を実施している。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携を図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%	0%	契約の際、避難場所を伝えている。強風、豪雨など天候の急変についてはLINE等で速やかにお知らせしている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%	0%	申し送り時での情報共有を必ず行い、ヒヤリハットはいつでもすぐに見られる場所に置くようにしている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%	0%	定期的な虐待防止研修を法人内で実施。外部での研修にも積極的に参加し伝達研修を実施することで職員の意識向上に努めている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	100%	0%	現在該当する利用児はいない。身体拘束を行ったこともなく、研修へ参加し適切な対応の仕方を学び全職員への周知を心掛けている。		